

# TOWER RECORDS 40TH ANNIVERSARY SUMMER SELECTION



# TOWER RECORDS 40TH ANNIVERSARY

タワーレコードが日本に上陸した1979年から、  
この令和元年を迎えた2019年でちょうど40年の時が経ちました。  
そんな40年目の夏を迎えるにあたって展開されるのが、  
「TOWER RECORDS 40th ANNIVERSARY SUMMER SALE」です。  
今回はタワーレコードのバイヤーがセレクトした  
オススメの作品を洋楽と邦楽それぞれ40タイトルずつ、  
計80枚のアルバムが対象商品となっています。  
往年のAORやシティ・ポップを中心に、  
近年のヴィンテージ・サウンドからヨット・ロックに至るまで、  
どれも時代を超えて愛される作品ばかり！  
これまでにさまざまな夏の記憶を彩ってきた作品が、  
これからもさまざまな夏の名場面と共にありますように！

【TOWER RECORDS 40TH ANNIVERSARY  
～SUMMER SELECTION】

cover illustration : Hiroshi Nagai  
operation / text : Koji Dejima  
design : Natsumi Arima  
advertising sales staff : Yukiko Kataoka

発行  
タワーレコード株式会社  
商品本部 販売促進統括部  
東京都大田区平和島 4-1-23 JS プログレビル 6F 〒143-0006

©2019 TOWER RECORDS JAPAN INC.  
禁・無断転載 Printed in Japan





**CHRISTOPHER CROSS**  
*Christopher Cross*  
Warner Bros./ワーナー (1979)

文字通り「南から来た男」のデビュー作にして、グラミーのクアルバム・オブ・ザ・イヤーを受賞したAOR名盤。優しいハイトーン・ヴォイスとマイケル・オマーティアンとのピアノを軸にした“Sailing”などの名曲を多数収録。



**DAVE MASON**  
*Old Crest On A New Wave*  
Columbia/ソニー (1980)

元トラフィックのギタリストが、ボズ・スキャッグス仕事で知られるジョー・ウィザードをプロデュースに迎えた大人のロック・アルバム。持ち前の渋いソウル風味を時流に折り合わせ、“Save Me”にはマイケル・ジャクソンも参加。



**DONALD FAGEN**  
*The Nightfly*  
Warner Bros./ワーナー (1982)

スティリー・ダンの活動停止後に発表した初のソロ・アルバム。酒脱で肉肉めかしたオープニングの“I.G.Y.”から、ジャジーで緻密なサウンドメイクによる知的な夜のムードが漂う。オールシーズンにしてタイムレスな名盤。



**DON HENLEY**  
*Building The Perfect Beast*  
Geffen/ユニバーサル (1984)

イーグルスの活動停止後に発表した2枚目のソロ・アルバム。過ぎ去っていった日々を思い馳せる“The Boys Of Summer”を筆頭に、苦みを湛えて疾走しながらも成熟したスタイルのロックを聴かせてくれる。



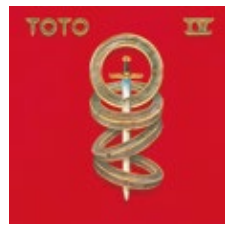
**J.D. SOUTHER**  
*You're Only Lonely*  
Columbia/ソニー (1979)

70年代ウェストコースト・ロックを支えてきた実力派SSWのアダルト・コンテンポラリー名盤。後に映画「波の数だけ抱きしめて」の挿入歌となったタイトル曲をはじめ、ノスタルジックな夏の光景を描き出してくれる一枚!



**GEORGE BENSON**  
*Give Me The Night*  
Warner Bros./ワーナー (1980)

フュージョンの世界で歌手としても名を上げてきたジャズ・ギタリストが、ブラック・コンテンポラリーの文脈で飛躍した傑作。ロッド・テンバートン作の表題曲を筆頭に、クインシー・ジョーンズ制作ならではの酒脱な楽曲が並ぶ。



**TOTO**  
*TOTO IV*  
Columbia/ソニー (1982)

デヴィッド・ベイチ、ジェフ・ボーカーらLAの腕利きスタジオ・ミュージシャンたちが結成したバンドの代表作。謎の浮世離れ感を誇る“Arfica”を含むほか、“Rosanna”など開放的な空気感に溢れたプライベートな楽曲が並んでいる。



**SADE**  
*Diamond Life*  
Epic/ソニー (1984)

シャーデー・アダユを中心とするロンドンの4人組バンドによるデビュー作。“Smooth Operator”や“Your Love Is King”など、ミステリアスな歌唱と洗練されたジャズなサウンドが醸し出すクールな熱気は唯一無二。



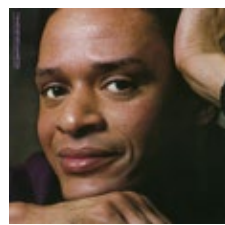
**NITEFLYTE**  
*Niteflyte*  
Ariora/ソニー (1979)

サンディ・トレノとハワード・ジョンソンのコンビが残したデビュー作。スウィートな大曲“If You Want It”からグルーヴィーな“Sunshine”までが心地良く並び、モダン・ソウル〜ブギーの文脈でもイケる爽快盤だ。



**GROVER WASHINGTON JR.**  
*Winelight*  
Elektra/ワーナー (1980)

スムーズ・ジャズの礎を作ったサックス奏者がラルフ・マクドナルドらに従って都会の夜を粋に演出した最大のヒット作。ビル・ウィザースがヴォーカルを取った“Just The Two Of Us”をはじめとするアーバンな名曲揃いだ。



**AL JARREAU**  
*Jarreau*  
Warner Bros./ワーナー (1983)

70年代から活躍してきたジャズ・ヴォーカリストによる、AOR/ブラック・コンテンポラリー路線でのヒット作。晴れやかなオープニングの“Mornin'”から、ジェイ・グレイドンらしいLAサウンドに乗って伸びやかな歌声が冴え渡る。



**THE STYLE COUNCIL**  
*Café Bleu*  
Polydor/ユニバーサル (1984)

ジャム解散後のポール・ウェラーが組んだユニットの初フル作。ソウルやジャズ、ボサノヴァなどを内包した酒脱な機能美にメッセージを忍ばせた洗練性は、後のアシッド・ジャズ〜渋谷系の美意識にも繋がるものだった。



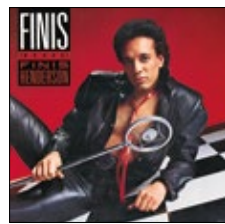
**AIR SUPPLY**  
*Lost In Love*  
Arista/ソニー (1980)

夏の海を想起させる作風によって日本でも人気を博したメルボルン出身バンドの世界デビュー作。表題曲や“All Out Of Love”など、くペパーミント・サウンドと称された清涼感に溢れるハーモニーの真髄が楽しめる。



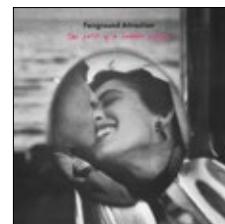
**RAY PARKER JR. & RAYDIO**  
*A Woman Needs Love*  
Arista/ソニー (1981)

ボズ・スキャッグスやエアプレイらを支えてきたセッション・ギタリストが自身のユニットで生み出した最大のヒット作。ソフトな歌声で通じる表題曲を筆頭にAOR文脈に迫るメロウなバラコン・グルーヴが満載されている。



**FINIS HENDERSON**  
*Finis*  
Motown/ユニバーサル (1983)

シカゴ出身コメディアンがアル・マッケイ(元EW&F)プロデューサーで残した唯一のアルバム。メロウなディスコ“Skip To My Lou”などAOR好きに愛された楽曲が満載で、**「真夏の麗気楼」**という邦題通り夏の夏映えする一枚だ。



**FAIRGROUND ATTRACTION**  
*The First Of A Million Kisses*  
RCA/ソニー (1988)

後にソロでも成功するエディ・リーナーを輩出したバンドの最初で最後のアルバム。全英1位を記録したデビュー曲“Perfect”を筆頭に、フォークやトラッドを基調にした麗らかなアコースティック・ポップが絶妙な心地良さ。



**AIRPLAY**  
*Airplay*  
RCA/ソニー (1980)

名匠デヴィッド・フォスターとジェイ・グレイドンがAORブームに応じた組んだユニットでの唯一のアルバム。トミー・ファンダーバークの青春ヴォーカルが冴え渡る“Stranded”を筆頭にロマンティックな名曲が揃っている。



**BILL LABOUNTY**  
*Bill LaBounty*  
Warner Bros./ワーナー (1982)

ウイスコンシン出身のSSWがラス・タイトルマンのプロデューサーで迎えた人気作。初夏の黄昏を思わせる“Livin' It Up”など、穏やかな歌声とやるせないメロディーがアダルト・コンテンポラリーの王道を柔和に進む。



**POSITIVE FORCE**  
*Positive Force Featuring Denise Vailin*  
Pヴァイン (1983)

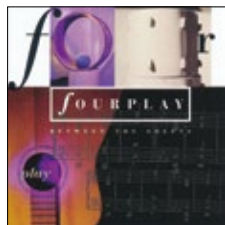
同名ファンク・バンドとは異なるフュージョン志向のグループがLAで制作したブライヴェート・プレス盤。長らくコレクターに求められてきた魅力の程は、都会的なメロウネスに溢れたモダン・ソウル・ナンバーの数々を聴けばわかる。



**SURFACE**  
*2nd Wave*  
Columbia/ソニー (1988)

ニュージャージー発のトリオが80年代らしいアーバンなスタイリングを極めた2作目。スウィートなラヴソング“Shower Me With Your Love”やクールな“Closer Than Friends”など粋なスロウ〜ミディアムの揃った名品だ。





**FOURPLAY**  
*Between The Sheets*  
Warner Bros./ワーナー (1993)

ポップ・ジェイムズ、ネイザン・イースト、ハーヴィー・メイソン、リー・リトナーが組んだスーパーグループの2作目。チャカ・カーンの歌う表題曲から穏やかな“A Summer Child”まで、真夏の時間の流れをスムーズに彩ってくれる。



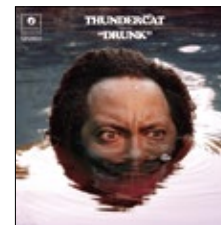
**ED MOTTA**  
*AOR*  
Dwitz Music/Pヴァイン (2013)

80年代から活躍するブラジルのシンガー・ソングライターが、生来のライトなソウル感覚をタイトル通りのテーマに集約して日本でも話題になった人気作。暑い季節がよく似合うブリージングなサウンドと洒落た歌声がメロウでたまらない。



**THE AVALANCHES**  
*Wildflower*  
Modular/ユニバーサル (2016)

サンプリングを駆使した変幻自在な曲作りで知られる豪州のユニットが16年ぶりに発表した2作目。キャンプ・ローがラップしたCMでお馴染みの“Because I'm Me”をはじめ、ディスコ/ファンク系の温かいネタ使いが明朗な印象を残す。



**THUNDERCAT**  
*Drunk*  
Brainfeeder/ビートインク (2017)

現行LAシーンを牽引するマルチなベーシストが盟友フライング・ロータスと創造した大傑作。マイケル・マクドナルドとケニー・ロギンスを招いたAORの“Show You The Way”など時を超えたフュージョン感覚から夏の薫りが立ち昇る。



**RED HOT CHILI PEPPERS**  
*Californication*  
Warner Bros./ワーナー (1999)

破天荒なミクスチャーの雄として脚光を浴びたバンドがメロディアスで優しい雰囲気サウンドを主軸にして創り上げた代表作。表題曲や“Scar Tissue”などのノスタルジックな情緒が夏の光景に馴染むのは言わずもがな。



**RHYE**  
*Woman*  
Polydor/ユニバーサル (2013)

カナダ出身のマイク・ミロシュがロビン・ハンニバルと組んだデュオの初作。あまく危険な“Last Dance”や抽象的な“One Of Those Summer Days”など、中性的な歌声と官能的なサウンドによってシャーデー風味の音世界が広がる。



**CALVIN HARRIS**  
*Funk Wav Bounces Vol. 1*  
Columbia/ソニー (2017)

EDM界のスターがアーバン系のスタイリングに挑んだ一枚。フランク・オーシャンなどの清涼なブギー“Slide”、アリアナ・グランデを迎えたR&Bタッチの“Heatstroke”、カリブ風味の“Feels”など、豪華ゲストと夏の彩りを奏でる。



**JONAS BLUE**  
*Blue*  
Virgin EMI/ユニバーサル (2018)

トレイシー・チャップマン“Fast Car”のトロピカル・ハウス・カヴァーが大ヒットして脚光を浴びたUKのDJ/プロデューサー。この初作では持ち前の微炭酸ハウスからダンスホールまで清涼感に溢れたフロア・ヒットが楽しめる。



**JACK JOHNSON**  
*In Between Dreams*  
Brushfire/ユニバーサル (2005)

オーガニックなサーフ・ミュージックを奏でて世界中で愛されるハワイ出身シンガー・ソングライターが、マリオ・カルダットJr.をプロデューサーに迎えた3作目。アコースティックな意匠と穏やかな美メロがこの季節にはピッタリ。



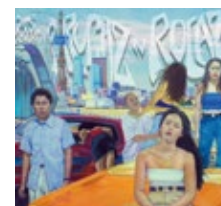
**TAYLOR SWIFT**  
*1989*  
Big Machine/ユニバーサル (2014)

2000年代のカントリー界を拡張したシンガー・ソングライターが明確に脱カテゴリアイ化を図った転機の大ヒット作。日本でもお馴染みになった“Shake It Off”を筆頭、“Blank Space”などメロディアスなエレクトロ・ポップが並ぶ。



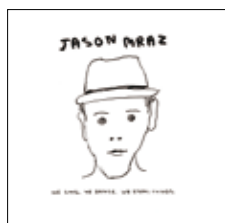
**ED SHEERAN**  
*÷*  
Atlantic/ワーナー (2017)

英国が生んだヒットメイカーの、現在進行形で記録を更新中の3作目。パーカッションな“Shape Of You”からアイリッシュ・フォーク風味の“Galway Girl”、トラディショナルなバラード“Perfect”まで情熱的な名曲だらけの傑作だ。



**LOS STELLARIANS**  
*Rucaz N Rolaz*  
BBQ (2018)

311のメンバーらがヴィンテージ・ソウルの再解釈に取り組んだプロジェクトの2作目。軽快なブギーで時流に乗りつつ、チカーノ風味の表題曲やスミスのカヴァー、レゲエの“Right On”などの絶妙に混在した西海岸らしさが快い。



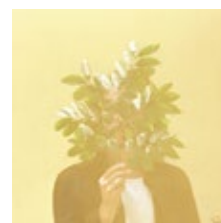
**JASON MRAZ**  
*We Sing, We Dance, We Steal Things*  
Atlantic/ワーナー (2007)

日本でも高い人気を誇るカリフォルニア拠点シンガー・ソングライターの代表作。世界的ヒットとなった“I'm Yours”をはじめ、オーガニックなアコギの弾き語りを中心にソウルやレゲエの影響を表出したサウンドが快い。



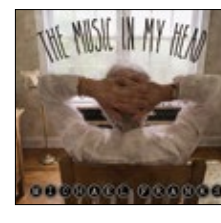
**JUSTIN BIEBER**  
*Purpose*  
Def Jam/ユニバーサル (2015)

お騒がせスターが起死回生を図った記録的なヒット作。トロピカル・ハウスの流行に先鞭つけた“What Do You Mean?”をはじめ、ダンスホール・ポップの“Sorry”や“Company”など、実はマイルドな夏向きの逸曲が揃っている。



**FKJ**  
*French Kiwi Juice*  
Roche Musique/Rambling (2017)

ニュージーランドにルーツを持つバリのクリエイターが、繊細なヴォーカルと緻密な空間処理で構築した初のフル・アルバム。アンビエントな“Skyline”などから広がるメロウな上質なベッドルーム・ソウルには深い時間がよく似合う。



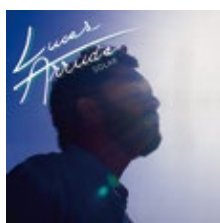
**MICHAEL FRANKS**  
*The Music In My Head*  
Shanachie/Pヴァイン (2018)

日本ではAOR目線の解釈で厚い支持を得ていたカリフォルニア出身ジャズ・ヴォーカリストの、現時点での最新作。ボサノヴァ色の濃いスムース・ジャズという路線は変わらず、ジェントルな歌い口で幻想的な夏模様を描き出す。



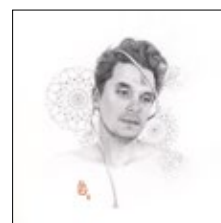
**CARLEY RAE JEPSEN**  
*Kiss*  
Interscope/ユニバーサル (2012)

弾けるような“Call Me Maybe”の世界的ヒットで一躍ブレイクしたカナダのポップ・シンガー。同曲や“Curiosity”、アウル・シティアとのコラボ“Good Time”など眩しい陽光の似合うブライトなティーン・ポップが満載されている。



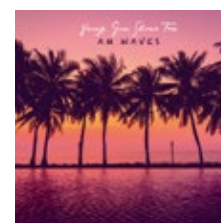
**LUCAS ARRUDA**  
*Solar*  
Favorite/Pヴァイン (2015)

70年代マナーのブラジリアン・メロウ・グルーヴを現代に蘇らせ、世界を虜にしたリオデジャネイロの音楽による2作目。アジムスのメンパー・ヤリオン・ウェアラを重鎮を迎え、往年のソウル〜フュージョン的な爽快感がより深く追求されている。



**JOHN MAYER**  
*The Search For Everything*  
Columbia/ソニー (2017)

ブルースの下地にソウルやカントリーも吸収してきたシンガー・ソングライターの現時点での最新作。ベースにピーノ・バラディーノ、ドラムスにスティヴ・ジョーダンが全面参加し、ギタリストとしての円熟味も聴かせる。



**YOUNG GUN SILVER FOX**  
*AM Waves*  
Legere/Pヴァイン (2018)

ママス・ガンのアンディ・ブラッツとマルチ・ミュージシャンのショーン・リーがライト&メロウなAOR作法で臨んだプロジェクトの2作目。昨今のシティ・ポップ復権やヨット・ロック再解釈にも直球で刺さる絶品の西海岸サウンド!





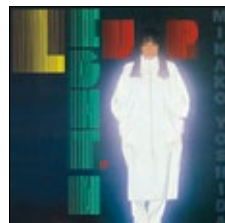
**SO NICE LOVE**  
SO NICE / OCTAVE (1979)

もともとはシュガー・ベイブ～山下達郎に憧れた日藝の学生たちによるバンドが、出場したコンテスト優勝を機に自主制作した卒業記念アルバム。“光速道路”をはじめ、後世のポップ愛好家に再評価されたもの納得のオマージュが並ぶ。



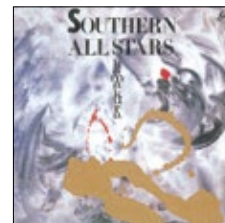
**東北新幹線 THRU TRAFFIC**  
フィリップス / VIVID (1982)

作曲家としても活躍した山川恵津子が鳴海寛と組んだ男女デュオでの唯一のアルバム。フリー・ソウルのなオープニングの“Summer Touches You”から、独特の情緒を滲えたニューミュージック的なメロネスが横溢する。



**吉田美奈子 LIGHTN UP**  
アルファ / GT music (1982)

ニューミュージック時代に登場してソウル/ファンク色を極めていったシンガー・ソングライターがNY録音も交えてアーバン志向を極めた傑作。軽やかなダンスの表題曲や“LOVE SHOWER”など卓越した歌唱力が冴え渡る。



**サザンオールスターズ KAMAKURA**  
タイシタ (1985)

すでに人気者となっていた彼らが活動休止を控えて発表した2枚組アルバム。代表曲のひとつ“メロディ (Melody)”を収めつつ、サンブラーやドラムマシンを多用した実験的な意匠や多彩なアイデアがひしめいた野心的な内容だ。



**池田典代 ドリーム・イン・ザ・ストリート**  
ORANGE HOUSE / 徳間ジャパン (1980)

山下達郎の提供 / 参加した表題曲の存在もあってマニア人気を集めてきたシティー・ポップ時代の佳作。佐藤博による“ひとねむり”など春色のメロウ曲が並ぶなか、船山基紀アレンジの歌謡ディスコ“恋のジャイロ”が夏の気分。



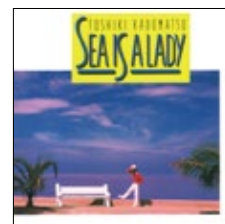
**NIAGARA TRIANGLE NIAGARA TRIANGLE Vol.2**  
NIAGARA / ヌーニ (1982)

大滝詠一が当時ニューカマーの佐野元春と杉真理を誘ったトライアングル企画の第2弾。ヒットしたフレース作法の“A面”で恋をして”をはじめ、オールディーズやリヴァール・サウンドを共通項にした三者のセンスが品良く融合する名盤。



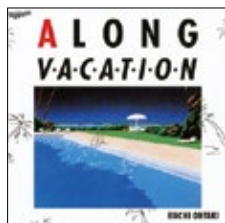
**国分友里恵 Relief 72 hours**  
AIR / GT music (1983)

後に作詞家としても活躍した女性シンガーのデビュー作。当時のNYツアーを意識した歯切れのいいアーバンな音作りは林哲司プロデュースならではの賜物で、再評価も著しい名曲“スノップな夜へ”など都会的な逸曲がひしめく。



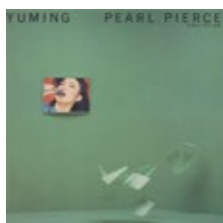
**角松敏生 SEA IS A LADY**  
オン (1987)

2017年にはセルフ・リメイク盤も作られた初のシンクル・アルバム。夏や海など開放感あるテーマを掲げた曲ごとのコンセプトに則って、ギタリストとしての手腕をエネルギーに発揮した爽快なフュージョン作品だ。



**大瀧詠一 A LONG VACATION**  
NIAGARA / ソニー (1981)

精緻なサウンドの洗練味を永井博のジャケで象ったソコ名義で最大のヒット作。“君は天然色”をはじめ、往年のアメリカン・ポップスに傾倒した人懐っこいセンスと松本隆のキャッチーな歌詞の織り成すカラフルな世界が広がる。



**松任谷由実 PEARL PIERCE**  
EXPRESS / ユニバーサル (1982)

代表曲のひとつ“真珠のピアス”を取め、同時代のAORマナーを取り込んだ軽快なアレンジの際立つヒット作。なかでも大人な夏休みをテーマにした“ようこそ輝く時間へ”やノスタルジックな“夕涼み”がこの季節に映える。



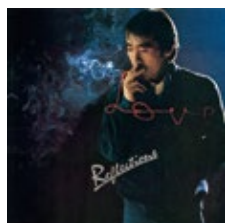
**村田和人 ひたけらの夏**  
MOON / FLY HIGH (1983)

生涯を通じて夏映える作風の際立っていたシンガー・ソングライターが、山下達郎プロデュースで送り出した代表作。CMソングとしてヒットした“一本の音楽”をはじめ、持ち前の軽やかなアメリカン・ロック色が光る名盤だ。



**Mr.Children EVERYTHING**  
トイズファクトリー (1992)

デビュー作にあたるミニ・アルバム。この後ファースト・シングルとしてリカットされる“君がいた夏”をはじめ、生々しい青春ムードとトラディショナルなロックへのオマージュを滲れたミステル筋のコアはすでに完成されている。



**寺尾聰 Reflections**  
EXPRESS / ユニバーサル (1981)

現在は不動の地位を築いている名優が、井上鑑に編曲を委ねたシンガー・ソングライターとしての最高傑作。記録的なヒット“ルビーの指環”以上に、“HABANA EXPRESS”など独特のリゾート感覚に溢れたダンディな名曲揃いだ。



**間宮貴子 ラブ・トリップ**  
キティ / ユニバーサル (1982)

これきりで表舞台を去った都会のいい女の唯一のアルバムにして、80年代シティー・ポップ～和製AOR屈指の名盤。星勝を筆頭に井上鑑や山下達郎バンドの面々らが後見し、“真夜中のジョーク”など洒落たムードが全編に漂う。



**竹内まりや ヴァラエティ**  
MOON / ワナー (1984)

詞曲をすべて本人が担当し、山下達郎がプロデュースする体制での初作。海外人気もあってリヴァイヴァルした“プラスチック・ラブ”や、シングル・ヒットした“もう一度”など代表曲の満載されたJ-Popスタンダードだ。



**スピッツ Crispy!**  
ポリドール (1993)

ブレイク前夜の初ヒットとなる“君が思い出になる前に”や、後からシングル化される“夢じゃない”を取めた4枚目のアルバム。ホーンを擁したフリー・ソウル風味が彼らには異色な“夏が終わる”が心地良いムードを醸している。



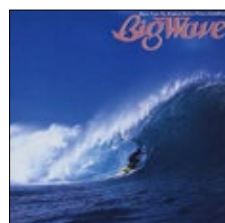
**佐藤博 awakening**  
アルファ / GT music (1982)

ハックルバックを経てティン・パン・アレーのメンバーとしても活躍した職人的ミュージシャンの代表作。リンドラムを軸にしたタイトな機能美と柔和なリゾート感が共存する、不思議なチルアウト感覚は夏にも相応しい。



**山下達郎 FOR YOU**  
AIR (1982)

ギターの印象的な“SPARKLE”で眩しく幕開けし、サンバ風味もある“LOVELAND, ISLAND”など、主役に対する世間のイメージをディスコからリゾート音楽へと模様替えした象徴的な名盤。鈴木英人のジャケも季節感を彩る。



**山下達郎 BIG WAVE**  
MOON / ワナー (1984)

ウォルター・マルコネリーが監督した同名ドキュメンタリー映画のサウンドトラックで、既発も含む全編英語詞のオリジナル曲とビーチ・ボーイズらのカバーで構成されている。なかでもグルーヴィーな“MAGIC WAYS”が絶品。



**フィッシュマンズ 空中キャンプ**  
ポリドール (1996)

レゲエを基調にした親しみやすいアプローチからダブの深淵へ至った6作目。“ナイトクルージング”や“すばらしくて NICE CHOICE”など、佐藤伸治の詞と浮遊する音で日常の風景を描く独創的な作風が永遠の夏を幻視させる。





**ゆず**  
ゆず一家  
SENHA & Co. (1998)

路上ライブから飛躍した2人のファースト・フル・アルバム。寺岡呼人らが共同プロデュースにあたったシンプルな作りで、メジャー・デビュー・シングル“夏色”や“少年”など風景が目に見えそうなナンバーが並んでいる。



**マキシマム ザ ホルモン**  
ぶっ生き返す  
パップ (2007)

ユニークなミクスチャー・サウンドを轟かせる4人組が躍進した6枚目のフル・アルバム。“恋のメガラバ”や“絶望ピリー”などインパクトのある楽曲が特盛り状態で、酷暑を追い吹きするようなコッテリした熱気が楽しめる。



**サニデー・サービス**  
DANCE TO YOU  
ROSE (2016)

永井博のイラストレーションというジャンルも印象的な再結成後の3作目にして通算10枚目。マイルドなグルーヴにシティー・ポップ・リヴァイヴァルへの返答も忍ばせつつ、ほろ苦く成熟した大人のサマー盤に仕上がっている。



**aiiko**  
湿った夏の始まり  
ポニーキャニオン (2018)

デビュー 20周年の節目にあたり、往年の代表作「夏服」(2001年)に通じる風情も滲えたアルバム。“ストロー”などで大人の余裕と魅力を濃密に漂わせながら、島田昌典アレンジの2曲では往時を思わせる表情を見せてくれる。



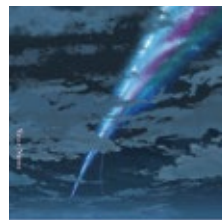
**MONGOL800**  
MESSAGE  
TISSUE FREAK (2001)

沖縄のスリーピースが全国にその名を轟かせたセカンド・アルバム。当時の青春バンクの文脈で語られた“あなたに”と“小さな恋のうた”を筆頭に、地元について歌った“琉球愛歌”などメロディックな爽快感が吹き抜ける。



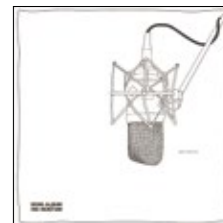
**一十三十一**  
Surfbank Social Club  
Billboard (2013)

ここ数年のリヴァイヴァルに先駆けて独自のシティー・ミュージックを紡いできたシンガー・ソングライターが、LUVRAWとBTB、grooveman Spotらを迎えた傑作のひとつ。ひと夏の物語を彩るような、波打ち際のサウンドトラック。



**RADWIMPS**  
君の名は。  
EMI (2016)

夏に公開されてその年を代表する映画となった新海誠の監督作品「君の名は。」の主題歌と劇伴を収めたサウンドトラック。幻想的な“夢灯笼”から“なんでもないや”まで物語を彩った映画的なナンバーが季節の薫りを伝える。



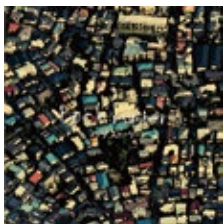
**INO hidefumi**  
SONG ALBUM  
INNOCENT (2018)

く歌わないシンガー・ソングライターとして趣深い世界を紡いできた鍵盤奏者が、全曲自身で歌った初のヴォーカル作品。小西康陽が作詞した“スカイツリー”やAOR歌謡の“東京上空3000フィート”など温かみに溢れた一枚だ。



**ASIAN KUNG-FU GENERATION**  
君繫ファイブエム  
キューン (2003)

登場から程なくして大型フェスの常連となったギター・ロック・バンドのファースト・フル・アルバム。“未来の破片”や“君という花”など力強い激情パワー・ポップがひびくように、叙情的な“夏の日、残像”を収録。



**back number**  
ラブストーリー  
ユニバーサルシグマ (2014)

当りきっての人気スリーピース・バンドが“高級の花子さん”のヒットで飛躍のタイミングを掴んだ4枚目のアルバム。切ない記憶を喚起するような“fish”や“繫いだ手から”などリリカルな人気曲を収めたポップな名盤だ。



**Suchmos**  
THE KIDS  
SPACE SHOWER (2017)

先行ヒット“STAY TUNE”での浸透を反映した2枚目のフル・アルバム。短絡的な世のイメージを吹き飛ばすかのように無骨なロック色を濃くする一方、持ち前のクールなブリギエやメロウ・チューンも黒みを増して響かせた傑作だ。



**Negicco**  
MY COLOR  
T-Palette (2018)

新潟を拠点に活動するトリオの結成15周年記念作。YOUR SONG IS GOODや思い出野郎Aチーム、ミト、冨田恵一ら多彩な作家陣が、彼女たちらしい季節感や情緒に溢れたシングルで美しい歌世界をたおやかに表現している。



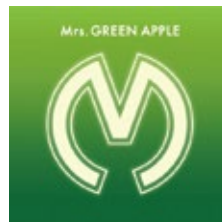
**ELLEGARDEN**  
RIOT ON THE GRILL  
Dynamord (2005)

昨年の復活が大きな話題となり、今夏のフジロック出演も発表されている4人組。この4作目はバンドの人気を拡大するロング・ヒットとなった代表作で、“Missing”をはじめとするライブ感に溢れたラウドな名曲が満載だ。



**cero**  
Obscure Ride  
カクハリズム (2015)

現行インディー・シーンの顔役がソウル/ジャズに接近して生み出した名盤。季節の空気感を含有した“Summer Soul”や“DRIFTIN”、シティー・フィーリングを纏った“FALLIN”などがメランコリックな夏の情緒にマッチする。



**Mrs. GREEN APPLE**  
Mrs. GREEN APPLE  
EMI (2017)

次世代ロックの新星と評された5人組によるメジャー進出後の2枚目のフル作。フェスでも人気のバンドらしいアップナーな“サママ・フェスティバル”やEDM風の“Oz”など、銜いなくキャッチーな彼ら流儀のティーン・ポップが光る。



**フレンズ**  
コン・バーチ!  
ワーナー (2018)

〈神楽系〉を標榜する男女5人組バンドの初フル作。活動当初からの人気曲“ベッドサイドミュージック”やクールな“常夏ヴァカンス”など、90年代J-Popを軸にシティー系や渋谷系の流れも汲み豊かなポップネスが心地良い。



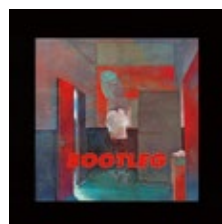
**Rei Harakami**  
lust  
Sublime / rings (2005)

矢野顕子や原田郁子とのコラボでも知られた電子音楽家の代表作。10分に及ぶ叙情的なアンビエント“joy”で空間を穏やかに染め上げ、細野晴臣のカヴァー“owari no kisetsu”では本人の繊細なヴォーカルも聴かせる。



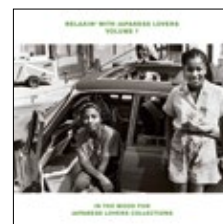
**WANIMA**  
Are You Coming?  
PIZZA OF DEATH (2015)

現在の勢いにまで繋がるロングセラーとなった初のフル・アルバム。ファスト・チューンの“夏の面影”やレゲエ風味を増した“1CHANCE”など人間味に溢れるキャッチーな持ち味が搭載されたヴァイタリティー満点の一枚だ。



**米津玄師**  
BOOTLEG  
ソニー (2017)

“LOSER”や“orion”などの人気曲を満載してロングセラーとなった大ヒット作。DAOKOとの“打上花火”をセルフ・カヴァーで収めているほか、菅田将暉や池田エライザ、常田大希 (King Gnu) らとのコラボも話題となった。



**RELAXIN' WITH JAPANESE LOVERS**  
LOVERS VOLUME 7  
Sony Music Associated (2018)

日本産のラヴァーズやダブを新旧の音源から選んだ人気コンピレーションの最新弾。大比良瑞希による“いかれたBABY”のカヴァーをはじめ、VIDEOTAPEMUSICや民謡クルセイダーズ、キミドリ、UAらのリラックシな楽曲にうっとり。





# NO MUSIC, NO LIFE. TOWER RECORDS 40TH ANNIVERSARY

## 時代やジャンルを超えて愛されてきた珠玉の40曲がコンパイル!!

音楽の聴き方、聴かれ方が多様化して云々……という毎度の話はさておき、広い意味でのポップ・ミュージックが常に新しいリスナーに向けて開かれているという状況そのものは変わっていません。しかも時代が何十年も積み重なってさまざまなブームやリヴァイヴが繰り返された効果もあって、いつ生まれた楽曲であろうと新しい受け手にとっては常にフレッシュなものとして接することのできるムードも顕在化してきたように思います。

そんなわけで、タワーレコードが日本進出してから40年という節目を記念して今回コンパイルされたのが『NO MUSIC, NO LIFE. TOWER RECORDS 40th ANNIVERSARY』です。ここではタワーレコードのバイヤーが時代やジャンルを超えて愛される珠玉の40曲をセレクト。対象年代はこの40年間にとどまらず、米国でタワーレコードが創立された1960年以

降のもの。エルヴィス・プレスリーの「好きにならずにいられない」(1961年)からサム・スミスの「ステイ・ウィズ・ミー〜そばにいてほしい」(2013年)まで実に50年以上にも及ぶ振り幅から選曲されています。

とはいえ、それが各世代のリアルタイムな懐かしさに訴えかける一面的なチョイスでないことは、例えばその「好きにならずにいられない」を80年代にコリー・ハートが、90年代にUB40が、2000年にHi-STANDARDが各々ヒットさせていることから明らか。もうひとつ例を挙げるなら、ロイ・オービソンの「オー、プリティ・ウーマン」(64年)は当時も全米No.1ヒットを記録したのち、82年にヴァン・ヘイレンのカヴァーで再脚光を浴び、オービソン自身のヴァージョンが90年に映画「プリティ・ウーマン」の主題歌としてリヴァイヴして以降は日本でもCMやTV番組などで使われ、幅

広い層に親しみがあるナンバーははず。そのように世代を問うことなく馴染みがあったり、耳新しかったりする40曲がCD2枚組に満載されているというわけです。

収録曲は、時代だけでなくカテゴリー/ジャンルのにもさまざま。ポップ・ディランの「ライク・ア・ローリング・ストーン」(65年)やボビー・ヘブ「サニー」(66年)、アレサ・フランクリン「ナチュラル・ウーマン」(67年)、フランキー・ヴァリ「君の瞳に恋してる」(67年)、デルフォニックス「ララは愛の言葉」(68年)、サイモン&ガーファンクル「明日に架ける橋」(70年)、スライ&ザ・ファミリー・ストーン「ファミリー・アフエア」(71年)、ギルバート・オサリバン「アローン・アゲイン」(71年)、ロバータ・フラック「やさしく歌って」(73年)、ミニー・リパートン「ラヴィン・ユー」(74年)、マリア・キャリー「ヒーロー」(93年)などスタンダード化している問答無用のクラシック・チューンをはじめ、ザ・モンキーズ「デイドリーム・ビリーバー」(67年)や、10cc「アイム・ノット・イ

ン・ラブ」(75年)、ビル・ウィザース「ラヴリー・デイ」(77年)、オアシス「ホワットエヴァー」(94年)など現在もCMなどで頻りに耳にする名曲たち、90年代に入って再評価されたアル・クーパー「ジョリー」(73年)やブッカー・T.「ジャマイカ・ソング」(74年)、オリコン洋楽チャート首位を獲得したアース・ウィンド&ファイア「宇宙のファンタジー」(77年)のような日本主導のヒット、さらにはドリー・パートン「オールウェイズ・ラヴ・ユー」(74年)やボビー・コールドウェル「風のシルエット」(78年)、マーヴィン・ゲイ「セクシャル・ヒーリング」(82年)、ブルース・ホーンズビー&ザ・レインジ「ザ・ウェイ・イット・イズ」(86年)、ホイットニー・ヒューストン「アイ・ハヴ・ナッシング」(92年)のようにカヴァー/サンプリングによっても後進アーティストに影響を残してきた名曲など……。ともかく、このメモリアルなコンピレーションが、過去の思い出を呼び起こすだけでなく、あなたにとっての新しい思い出を生み出すことができますように。



[DISC 1] 01. 好きにならずにいられない / エルヴィス・プレスリー 02. オー、プリティ・ウーマン / ロイ・オービソン 03. ライク・ア・ローリング・ストーン / ボブ・ディラン 04. サニー / ボビー・ヘブ 05. 君の瞳に恋してる / フランキー・ヴァリ 06. デイドリーム・ビリーバー / ザ・モンキーズ 07. ララは愛の言葉 / デルフォニックス 08. ナチュラル・ウーマン / アレサ・フランクリン 09. 明日に架ける橋 / サイモン&ガーファンクル 10. ファミリー・アフエア / スライ&ザ・ファミリー・ストーン 11. ジョリー / アル・クーパー 12. アローン・アゲイン / ギルバート・オサリバン 13. やさしく歌って / ロバータ・フラック 14. ジャマイカ・ソング / ブッカー・T. 15. オールウェイズ・ラヴ・ユー / ドリー・パートン 16. ラヴィン・ユー / ミニー・リパートン 17. アイム・ノット・イン・ラブ / 10cc 18. ウィアー・オール・アローン / ボズ・スキャッグス 19. ラヴリー・デイ / ビル・ウィザース 20. ベビー・カム・バック / プレイヤー 21. 宇宙のファンタジー / アース・ウィンド&ファイア

[DISC 2] 01. 風のシルエット / ボビー・コールドウェル 02. ウーマン・ニーズ・ラヴ / レイ・パーカーJr.&レイデオロ 03. アフリカ / TOTO 04. セクシャル・ヒーリング / マーヴィン・ゲイ 05. マイ・エヴァ・チェンジング・ムーズ / スタイル・カウンスル 06. ザ・ウェイ・イット・イズ / ブルース・ホーンズビー & ザ・レインジ 07. トゥルー・カラーズ / シンディ・ローパー 08. 胸いっぱい / 愛のバングルス 09. パーフエクト / フェアグラウンド・アドラクション 10. イット・エイント・オーヴァー・ティル・イッツ・オーヴァー / レニー・クラヴィッツ 11. キス・オブ・ライフ / シャーデー 12. ヒーロー / マリア・キャリー 13. アイ・ハヴ・ナッシング / ホイットニー・ヒューストン 14. ホワットエヴァー / オアシス 15. マイ・ハート・ウィル・ゴー・オン / セリーヌ・ディオン 16. アイ・ウォント・イット・ザット・ウェイ / バックストリート・ボーイズ 17. イフ・アイ・エイント・ガット・ユー / アリシア・キーズ 18. ティアーズ・ドライ・オン・セア / オウン・エイミー・ワインハウス 19. ステイ・ウィズ・ミー〜そばにいてほしい / サム・スミス

## NO MUSIC, NO LIFE. TOWER RECORDS 40th ANNIVERSARY

タワーレコード限定発売 ¥2,800+税 [SIC7-12~13]

\*購入者特典「ジャケットステッカー」

# HIROSHI NAGAI × TOWER RECORDS

タワーレコード40周年を記念した、イラストレーター HIROSHI NAGAI(永井博)とのコラボグッズを発売！ すべて数量限定につき、お早めに！！

## 全店舗で販売

### HIROSHI NAGAI × TOWER RECORDS トートバッグ

マチ付きでLPレコードが10枚ぐらいつまみ入るサイズのトートバッグ。

¥2,700 (tax in)



### HIROSHI NAGAI × TOWER RECORDS クリアファイル

書類などの整理はもちろん、思わず飾って眺めたくってしまうA4クリアファイル。

¥378 (tax in)



### HIROSHI NAGAI × TOWER RECORDS 缶マグネット

素敵なイラストがコンパクトな缶マグネットに。デスクや冷蔵庫で大活躍間違いなし。

¥432 (tax in)

## 渋谷店、タワーレコード オンライン 限定販売

### HIROSHI NAGAI × TOWER RECORDS ビール

素敵なイラストのラベルがビールの美味しさをさらにUP!  
数量限定のレアなビール。

¥1,080 (tax in)



#### 永井博(ナガイ・ヒロシ)プロフィール

1947年12月22日、徳島市生まれ。グラフィックデザイナーを経て、1978年よりフリーのイラストレーターとして活動する。大滝詠一のアルバム『A LONG VACATION』などのレコード・ジャケットに代表されるトロピカルでクリアな風景や人物のイラストレーションで知られる。レコード・ジャケットのイラストで独自の地位を築き、これまでにマツオカナオヤ、藤原ヒロシと川辺ヒロシ、憂歌団、杉山清貴ら多くのアーティストのジャケットに携わる。『A LONG VACATION / 大滝詠一』(1981年)で、レコード大賞「アルバム・ジャケット特別賞」を受賞している。出版物として『A LONG VACATION』(1979年)、『HALATION』(1981年)、『NIAGARA SONGBOOK』(1982年)などを刊行。2017年7月には『Time goes by... 永井博作品集』を復刊。イラストの世界だけでなく、ソウル・ミュージックのレコード・コレクターとしても知られており、DJ活動も精力的に行っている。

## 一部店舗で販売

(渋谷店、新宿店、札幌ピヴォ店、仙台バルコ店、名古屋近鉄パッセ店、梅田NU茶屋町店、難波店、福岡バルコ店、タワーレコード オンライン)

### HIROSHI NAGAI × TOWER RECORDS Tシャツ

夏にピッタリのイラストが爽やかで涼しげなTシャツ。  
サイズはS、M、L、XLの4種類。

¥4,104 (tax in)



### HIROSHI NAGAI × TOWER RECORDS モバイルバッテリー

スリムで持ち運びに便利な大容量(5000mAh)モバイルバッテリー。  
iPhone充電用コネクタ付き(6~X対応)

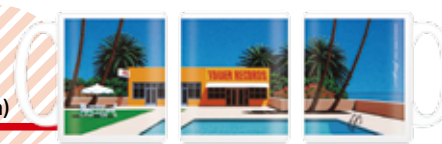
¥3,996 (tax in)



### HIROSHI NAGAI × TOWER RECORDS マグカップ

カップ全面にイラストがプリントされた  
使い勝手の良いサイズのマグカップ。

¥1,836 (tax in)



## 新宿店、タワーレコード オンライン 限定販売

### HIROSHI NAGAI × TOWER RECORDS ファブリックパネル

イラストを布地にプリントし、キャンバスのような木枠に貼ったファブリックパネル。  
インテリアとしてそのまま飾れます。

¥4,320 (tax in)



## レコード40周年 SUMMER SALE

6.21(FRI) - 7.28(SUN)

- タワレコチョイス!まとも買い3枚で20%OFF
- 1万円(税込)以上お買上げで、1,000円OFFクーポンがもらえる!
- SUMMER CHANCE!応募抽選で豪華賞品が当たる!
- お買上げの方に、40周年特製ポストカードを先着でプレゼント!

サマーセールの詳細はこちら tower.jp/summer19